

でも文化を高調する人々の説は凡て併せて、文化教育學を稱してあるのである。

まづ文化教育學の史的考察を試み、次にテイルタイ、フツサー、オイケンの哲學を説き、次に文化教育學の研究の現狀を解説し、次にテイルタイ派の文化教育學について、シュブランガー、ケルシエンシユタイナー、シユテルン、フリッヅヤイゼンケラー、リット、乙竹教授、入澤助教授の諸氏に分つて細説し、次にオイケン派の文化教育學を説き、次に新カント派の文化教育學を長田教授佐藤教授の諸氏に分つて説いてある。

最後に「文化教育學の特質と批判」と題し、結論を施してある。つまり著者の主張は文化教育學はテイルタイ一派を祖述することに終始すべきでない。人格的教育や新カント派の教育説と共に必ず三位一體となるべき本質的共通點があるといふ點にある。否むしる、文化教育學は、その缺點(重大なる缺點として往々指摘される)たる論理の明晰を缺いてゐる點を新カント派の學説によつて救ひうるを考へて居られるやうである。「文化教育學をして一時的流行思潮たらしむることなく、唯一の教育哲學とし、唯一の教育指導原理たらしむるためには、單にテイルタイ、シュブランガーを祖述することからして、眞にテイルタイ、シュブランガーをして完成せしむべくつゞめねばならぬ。そのためには何よりも先に長田氏の如き研究態度にまで進まねばならぬ、云々。」(本書三一〇頁)とあるのは、著者の眞精神、この著の眞の企圖であらうと思はれる。

一通り、文化教育學全般についての知識を縮縮しようとした爲、箇々の説明が簡單になり、従つて理解を妨げる點も少くない。且、誤植も少くないが便利な著書である。(定價武園六拾錢 本文三一頁。高橋俊乘)

寄贈書籍

(昭和二年八月——九月)

一 日本の世運と子女の教學 安岡正篤著

(金鷄文藝第一)

一 老莊的風雲兒 坂本龍馬 森 茂著

(人物研究叢刊第二)

一 復古の玉松操 (上) 伊藤武雄著

(同人 第三)

一 哲學者の話

以上 金鷄學院 刊 行

森川智徳著

中外出版株式會社

哲學茶話會

九月二十日(火)午後七時より樂友會館樓上にて

西晉一郎氏「記憶と時間について」 森 信三君

景報

静岡縣教育 同 八月號

東京帝國大學新聞 第二百十八號

寄贈圖書新聞

(昭和二年八月—九月)

哲	學	丁	酉	倫	理	講	演	集	誌	本年八月號
學	生	理	學	研	究	苑	同	九月號	同	九月號
教	育	心	理	研	究	苑	同	九月號	同	九月號
東	亞	の	光	同	八月號	同	八月號	同	九月號	同
學	校	教	育	同	八月號	同	八月號	同	八月號	同
奈	良	縣	教	育	同	八月號	同	八月號	同	八月號
帝	部	教	育	同	八月號	同	八月號	同	八月號	同
信	濃	教	育	同	九月號	同	九月號	同	九月號	同
願	教	育	同	九月號	同	九月號	同	九月號	同	九月號
時	報	同	九月號	同	九月號	同	九月號	同	九月號	同